

淀川水系流域委員会（地域委員会）

議事概要

1. 日 時：令和3年4月12日（月） 9:00～11:45
2. 会議方法：Web
3. 出席者：別紙 委員名簿より

4. 議事概要

1)

委員：語句の整理はとても大切だが、気になるのは、支援と協力を説明する文章が同じであること。

事務局：河川管理者へのサポートを協力、河川管理者からのサポートを支援と定義しており、河川協力団体などの法令上の用語や、現行計画の表現を踏まえて整理した。

委員：資料3-1に基準点での流量があり、そこに至るまでには上流での氾濫もあるとのことだが、どういう川筋ではそのようなことを考えなくてはならないのか。また、どこの川筋でも氾濫するという理解で良いか。

事務局：資料3-1のP.7上段の淀川のグラフでは、桂川で水が溢れている状況になる。一例を説明したが、どこの川でも起こり得る現象である。

委員：狭窄部を開削する前に、狭窄部間で貯める対策をする、それに対応できない場合に整備内容を足していくというような考えの方が分かりやすい。上流の市町村も含め、流域全体で治水を考えて行くべき。

事務局：変更原案P.64「狭窄部の上下流における上下流バランス」に、考え方を記載にしている。流域治水を進める中で、その趣旨であらゆる関係者と議論していく。

委員：平成28年のダム検証の内容について検討し直したということで、大戸川ダムが優位ということが妥当だということだと思うが、1～9の案と流域治水の関係性、大戸川ダムの優位性、合理性を改めて説明をしてほしい。

事務局：抽出して比較検討した案は、案1は大戸川ダム、案2は河道掘削、案3は放水路、案4は遊水地、案5は瀬田川新堰、案6が既存ダムかさ上げ、案7が利水容量買い上げ、案8が水田と雨水貯留、案9が雨水貯留を中心とした案。当時から流域での対策を見込んで評価している。流域治水を推進すると、計画を上回る洪水に対しては、効果が上乗せできるが、案7～9では計画の中に流域治水の一部を見込んでいるため、上乗せ分が目減りする。

委員：流域治水の川の外での対策の事例を紹介して欲しい。

事務局：前回の資料に示したが、流域での対策として、農水省関係、都市局の高台整備、

下水道の地下河川、校庭での貯留などがあり、逃げる対策として、情報発信、ハザードマップ等の拡充、洪水予測の気象庁との連携などがある。

委員：大戸川ダムの検証について、流域治水を組み合わせた案を再評価するにあたって、流域治水の分をどのように算定しているのか。全国一律の基準があり、地域毎の算定基準があるのか。

事務局：平成 28 年のダム検証時には、水田は流域内の水田面積に堰板をはめて貯められる量を算定した。雨水浸透も土地利用を見て、一定以上の面積をもつ範囲に貯留施設を設けた想定して算定。今も HP に公表させて頂いている。地域や土地利用に差があるが、全国で概ね同じやり方で算定している。

委員：流域治水によって河川整備の代替をなすという考え方はやめた方が良い。前回も言ったが、流域治水は予期せぬ雨への対応など、計画+ と考えるべき。ダムの代わりになるというような考え方では無く、流域治水でさらに安全になると捉えるべき。少しでも下流の洪水を減らすという意味では、雨天時に使えない競技場の駐車場の活用を考えるべき。

事務局：他水系では駐車場の活用事例もあるため、淀川水系でも協力頂けるよう議論していきたい。

委員：流域治水を実施していくにあたり、水田やため池の活用について、費用対効果も考える必要がある。流域治水を考える上では貯留 1m³ あたりの費用等を数値で示すべき。

事務局：ご指摘の通り、どれくらいの能力を発揮できるかが分かった方が協力が得やすいと思うので、流域治水協議会の中で議論していきたい。

委員：流域治水の背景には、水循環や水をどう治めるのかという観点があると思うので、俯瞰的に、水をどう治めるのかという視点に変わっていくべき。

単価の問題は非常に大事。寝屋川流域では 1m³ で 25 万円と聞いた。田んぼならもっと安いはず。分かりやすい議論は必要。

また、貯留については、駐車場、校庭、地下と事例はたくさんあるが、市町村まかせにせず、河川管理者から協議会を通じて働きかけていくべき。

委員：流域治水については、法令化する部分とお願いする部分を明確に分けるべき。法定化する部分は数値化しても、お願いする部分は+ と考えるべき。

委員：資料 3-1 の P.7 宇治川について右のグラフが平衡になるのは原因があるのか。上流での流量が増えてきたらどうするのか。

事務局：宇治地点は天ヶ瀬ダムの下流にあり、その操作の影響を大きく受ける。操作は宇治川のための 1 次調節を行い、その後、淀川のための 2 次調節をする。

委員：住民からの意見に対しては、個別に対応を公表するのか。

事務局：参考資料2のP.1の対応方針に記載したとおり、計画の案に反映する。案を示す際、変更原案と対比できるような形で、意見と対応方針も記載し、分かりやすく示したい。同じ箇所に複数の意見がある場合もあり、法律用語などもあるので、一言一句ご意見通りにはならないかもしれないが、反映する。

委員：各地域では、下流のためではなく、自分の地域を守りたいという思いがある。流域治水の推進にあたっては、全体をみる管理者が呼びかけるべき。

事務局：流域治水は、淀川水系全体の協議会と、各府県単位の分会を設けて進めている。地域ごとの考え方、捉え方にも対応していきたい。

委員：上流に琵琶湖が含まれているのか。

事務局：上下流交流などの一般論としては、琵琶湖も上流に含まれるが、水源地ビジョンなどダム施策について、琵琶湖が含まれない場合がある。

委員：流域治水が一般の考え方に定着するようにしてほしい。これが当たり前になるように発信をして、考え方を浸透させていくべき。

委員：流域治水は、プロジェクトを策定して進められているが、その成果などをどのように進捗点検に盛り込むのか。

事務局：進捗点検の進め方としては、流域治水で実施したものについては報告するようにする。具体には進捗点検の際に議論いただきたい。

委員：変更原案の流域治水の記載について、P.64だけ「推進する」でなく、「取組をさらに進めていくこととする。」という記載になっているため、統一すべき。

事務局：検討の上、計画の案に反映したい。

委員：流域治水について、関係機関と一緒にになって実現するように流域治水協議会で議論して欲しいと思っており、支援だけでなく、自治体をやる気にさせるような働きかけをすべき。

事務局：流域治水の取組の中でも、広報の中でも、関係機関と連携して取り組んでいきたい。

委員：流域治水は地方自治体の負担もあるので、支援の中には財政的支援も必要。河川整備計画にも記載すべき。

事務局：例えば、まちづくりの支援には都市行政としての補助制度があるが、河川行政としての補助ではないため、河川法に基づく計画への記載になじまないものもある。

委員： 変更原案の P.40 は具体的なことが「学校等と調整し」という記載ぶりは弱いと感じる。学校は忙しいため個別の対応が難しい場合もあるため、教育委員会に働きかけ、個々の現場に下ろしてもらおうようにすべき。

事務局： 検討の上、計画の案に反映したい。

委員： 今回の河川整備計画の変更は、河川管理者の気候変動への危機感、やらねばという使命感が感じられる。河川管理者にエールを送りたい。

委員： 変更原案 P.1 に環境に関する理念が記載されている。災害が頻発しているため治水に意識がいきがちだが、環境の観点ではこの理念を大事にするべき。

事務局： 防災面、環境面でのエールをいただいたと考えている。理念に沿って整備を進めていく。

委員： 治水と環境面の話があったが、理念には、「河川の縦断・横断方向の連続性の修復」という川と人とのつながりに関する理念も記載されている。書面での意見と重複するが、河川の横断方向の連続性を確保するよう整備すべき。

事務局： 書面でのご意見も担当一同で熟読し会議に臨んでいる。検討の上、計画の案に反映したい。

委員長： 今回で流域委員会は3回目になるが、整備計画の原案に対する意見はほぼ出して頂いたように思う。委員会の意見だけでなく、パブリックコメント、公聴会での意見についても、案になる段階で反映されるのか。

事務局： 流域委員会や住民の皆様からの意見は、意見の意図を踏まえて計画の案に反映する。

委員長： 流域委員会の大事な役割である進捗点検の中で意見を述べる機会があるかと思うが、整備計画変更原案に対しては、ほぼ出尽くしており、意見について案に反映するということなので、変更原案に対する委員の意見を聴く場は終了する。

事務局： 委員の皆様には貴重なご意見をありがとうございました。これまで流域委員会や住民の皆様から頂いた意見を踏まえ、河川整備計画の変更案の作成を進めていく。河川整備計画変更案の公表する際には、どのようにご意見を反映したのかについても、できるだけ分かりやすく示すとともに、流域委員会の中でも、進捗点検等の機会に、説明させて頂く。

以上

淀川水系流域委員会【地域委員会】委員名簿

令和3年4月12日

◎委員長 ○副委員長

氏名	分野	所属等	備考
ウエダ ヨウジ 上田 耕二	治水・防災	元伊賀市喰代区長	Web
ウエダ タケン 上田 豪	人文・経済・社会	淀川河川レンジャーアドバイザー	Web
オガワ リキヤ 小川 力也	環境	科学教室 力塾 塾長 元大阪府立富田林高等学校	Web
シドウ シュウシ 志藤 修史	危機管理	京都災害ボランティアネット 副理事長 大谷大学 文学部 教授	Web
スカワ ヒサン 須川 恒	環境	龍谷大学 里山学研究センター 研究員	Web
タダ シゲミツ 多田 重光	利水・利用	(公社)宇治市観光協会 専務理事兼事務局長	Web
ナカタニ ケイゴウ 中谷 恵剛	治水・防災	NPO法人 瀬田川リバプレ隊	Web
ヒラヤマ ナオコ 平山 奈央子	人文・経済・社会	滋賀県立大学 環境科学部 講師 元琵琶湖河川レンジャー	書面
マツオカ マサトミ 松岡 正富	利水・利用	朝日漁業組合	Web
マツモト カオル 松本 馨	環境	「池田・人と自然の会」副代表 大阪大学大学院理学研究科招聘研究員	Web

(敬称略・50音順)